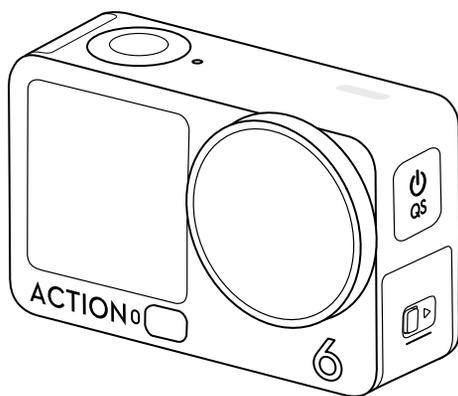


# **dji** OSMO ACTION 6

## ユーザーマニュアル

v1.0 2025.11





本書は、DJI の著作物であり、すべての権利は DJI に帰属します。DJI から別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用、または他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容を DJI 製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。言語版によって相違がある場合には、英語版が優先されます。

### キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

### 任意のトピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

### 本書を印刷する

本書は高解像度印刷に対応しています。

# 本マニュアルの使用方法

## 凡例

△重要

💡ヒントとコツ

📖参考

## ご使用前にお読みください

DJI™は、チュートリアルビデオと次のドキュメントをご用意しています。

1. 『安全ガイドライン』
2. 『クイックスタートガイド』
3. 『ユーザーマニュアル』

すべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、『安全に関するガイドライン』をお読みください。初めて使用する前に、必ず『クイックスタートガイド』を確認し、詳細について『ユーザーマニュアル』を参照してください。

## チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか QR コードをスキャンすると、チュートリアルビデオを視聴でき、製品の安全な使用方法を知ることができます：



<https://www.dji.com/osmo-action-6/video>

# 目次

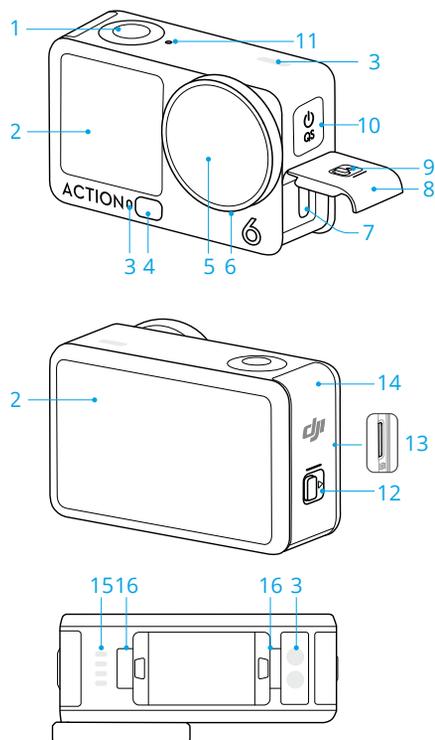
<b>本マニュアルの使用方法</b>	<b>3</b>
凡例	3
ご使用前にお読みください	3
チュートリアルビデオ	3
<b>1 製品の特徴</b>	<b>5</b>
1.1 概要	6
1.2 接着式カーブベース	6
1.3 Osmo 1.5m 延長ロッド	8
1.4 バッテリーケース	9
<b>2 準備</b>	<b>11</b>
2.1 バッテリーの取り付けと充電	11
2.2 アクティベーション	11
2.3 ファームウェアの更新	12
<b>3 本製品の使用</b>	<b>14</b>
3.1 ボタン機能	14
3.2 タッチスクリーンの操作	15
撮影モードの設定	16
撮影パラメーターの設定	16
コントロールセンター	18
3.3 超スローモーション	19
3.4 映像の保存と転送	20
ストレージ空き容量	20
ファイル転送	21
モバイル端末へのファイル転送	21
ファイルをパソコンに転送	21
3.5 ウェブカメラモード	22
3.6 サイドカバーの取り外し／取り付け	22
3.7 使用上の注意	23
水中での使用	23
バッテリー	25
クリーニング	25
<b>4 仕様</b>	<b>26</b>

# 1 製品の特徴

コンボによってアクセサリーは異なる場合があります、別途購入することも可能です。互換性のあるアクセサリーの完全なリストは[公式ストア](#)をご覧ください。

アクセサリー	Osmo Action 6 スタンダードコ ンボ	Osmo Action 6 アドベンチャー コンボ
Osmo 両方向クイックリリース式アダプターマウント (以下「クイックリリース式アダプターマウント」とい います)	✓	✓
Osmo Action 接着式カーブベース (以下「接着式カーブベース」といいます)	✓	✓
Osmo 多機能バッテリーケース 3 (以下「バッテリーケース」といいます)	-	✓
Osmo 1.5m 延長ロッド	-	✓

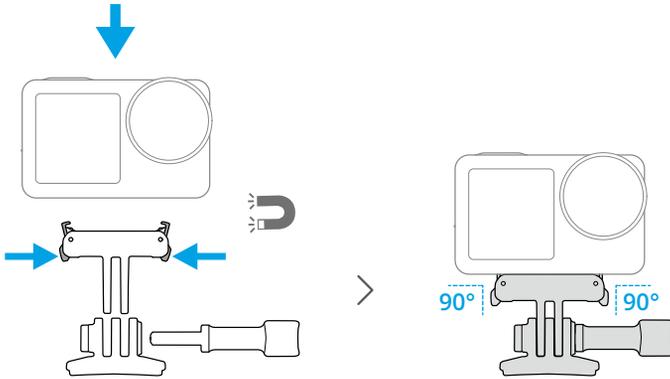
## 1.1 概要



1. シャッター／録画ボタン
2. タッチ画面
3. マイク
4. 色温度センサー
5. レンズ
6. レンズ保護カバー（ガラスレンズカバー）
7. USB-C ポート
8. USB-C ポートカバー
9. USB-C ポートカバー取り外しボタン
10. 電源／クイックスイッチボタン
11. 圧力センサー
12. バッテリー収納部カバー取り外しボタン
13. microSD カードスロット
14. バッテリー収納部カバー
15. スピーカー
16. クイックリリース用取り付け穴

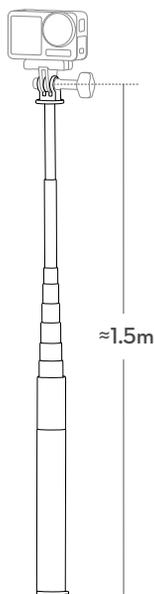
## 1.2 接着式カーブベース

接着式カーブベースを使用することで、滑らかで清潔な曲面にもカメラをしっかりと取り付けることができます。



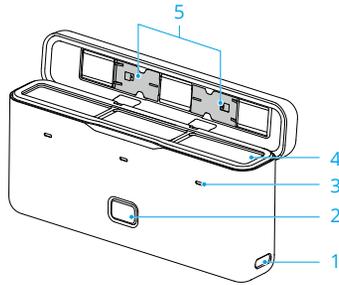
- ⚠
- クイックリリース式アダプターマウントのクリップがカメラのクイックリリース用取り付け穴にしっかりと挿入されるまでカメラを押し下げ、止めネジで締めます。クイックリリース式アダプターマウントのクリップを押すと、カメラを取り外せません。
  - 接着ベースをしっかりと貼り付けて、10秒間以上押さえ続けます。その後、30分待ってからカメラを取り付けることをおすすめします。
  - 接着式ベースは、綺麗な状態の曲面に1回だけ取り付けが可能です。接着式ベースを、平らな面、粗い面、粉のついた面、はがれかけた面、ほこりや砂のついた面、または油やワックス、水汚れが付いた面には取り付けないでください。アダプターマウントがしっかりと取り付けられない恐れがあります。
  - 接着式ベースの推奨適用温度は-10℃～40℃です。この温度範囲よりも高い、または低い温度の表面に接着ベースを取り付けないでください。

## 1.3 Osmo 1.5m 延長ロッド



- 
- ⚠
- 損傷を避けるため、使用中は延長ロッドを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
  - 損傷を避けるため、カメラ装着時に延長ロッドを乱暴に振り回したりしないでください。
  - 水中での使用後は、きれいな水ですすいで砂を取り除いてください。
  - 落雷を避けるため、雷雨時は延長ロッドを使用しないでください。
-

## 1.4 バッテリーケース



1. USB-C ポート
2. ステータスボタン  
ボタンを 1 回押すと、バッテリー残量を確認できます。
3. ステータス LED

### バッテリー残量

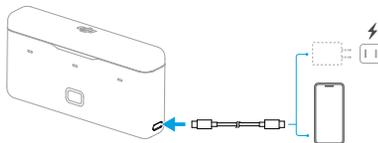
赤色点灯	0～20%
黄色点灯	20%～80%
緑色点灯	80%～100%

### 充電と放電ステータス

オフ	そのバッテリーポートにあるバッテリーの充電が完了。
ブリージング	対応するバッテリーが、充電中です。
順番に緑色点滅	バッテリーが一つも挿入されていない。
赤色点滅	そのバッテリーポートに挿入されているバッテリーが異常状態。

4. バッテリーポート
5. microSD カードスロット

💡 バッテリーを挿入した状態で、バッテリーケースはバッテリーやスマートフォンなどの外部デバイスを充電できます。



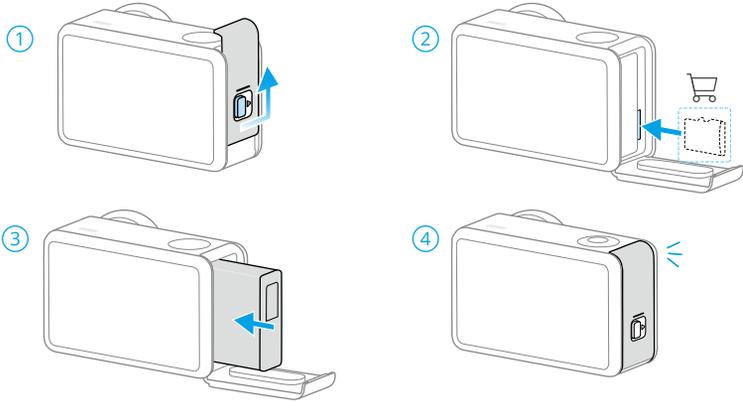
- バッテリーを充電する際は、PD (Power Delivery) または PPS (Programmable Power Supply) に対応した USB-C 充電器の使用をお勧めします。残量が一番高いバッテリーが最初に充電されます。
- 外部デバイスを充電する際、電力レベルが最も低いバッテリーが最初に放電されません。

- 
-  • 本バッテリーケースを使用する際は、平らで安定した面に置いてください。火災の危険を防ぐために、本機器が適切に絶縁されていることを確認してください。
- バッテリーポートの金属端子には、触れないでください。
  - 金属端子の汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。
  - バッテリーケースは、防水ではありません。ケースを水に入れたり、液体をこぼしたりしないでください。
-

## 2 準備

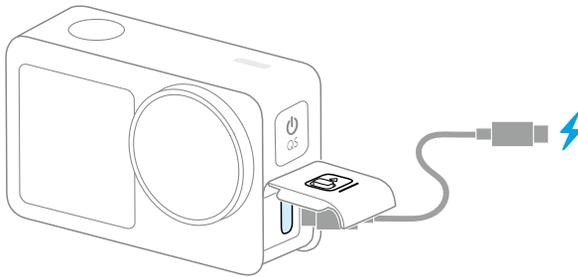
### 2.1 バッテリーの取り付けと充電

バッテリーを挿入し、カバーを完全に閉じます。



💡 カメラには使用可能なストレージが 50 GB あり、ストレージ拡張のために microSD カードをサポートしています。推奨 microSD カードについては [仕様](#) を参照してください。

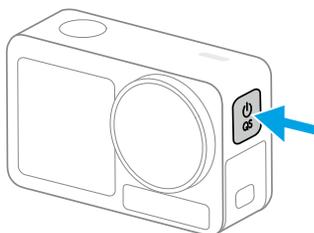
PD または PPS に対応した USB-C 充電器の使用をお勧めします。



### 2.2 アクティベーション

初めて使用する前に、DJI Mimo アプリを使用してカメラのアクティベーションを行ってください。

1. 電源ボタンを長押ししてカメラの電源を入れます。



2. 画面の QR コードをスキャンして DJI Mimo アプリをダウンロードします。
3. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth を有効にします。
4. モバイル端末で DJI Mimo アプリを起動して、カメラアイコンをタップしてカメラに接続し、手順に従ってカメラのアクティベーションを行います。

カメラが DJI Mimo アプリと併用されている場合、モバイル端末を使用して、現在のカメラビューをモニタリングしたり、カメラパラメーターを設定したり、カメラを制御したりできません。

- 目録
- アプリがサポートする Android と iOS のオペレーティングシステムのバージョンを確認するには、<https://www.dji.com/downloads/djiapp/dji-mimo> をご覧ください。
  - アプリのインターフェースおよび機能は、ソフトウェアのバージョンが更新されると変わる場合があります。実際のユーザー体験は、使用するソフトウェアのバージョンによって異なります。

- 🔧 DJI Mimo アプリへの接続時に問題が発生した場合には、次の手順に従ってください。
1. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth の両方が有効になっていることを確認してください。
  2. DJI Mimo アプリが最新ファームウェアバージョンであることを確認してください。
  3. カメラのライブビューで、画面の上から下にスワイプし、**🔵 > 無線接続 > 接続をリセット**をタップします。カメラのすべての接続と Wi-Fi パスワードがリセットされます。

## 2.3 ファームウェアの更新

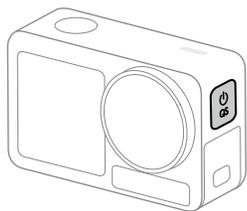
新しいファームウェアが利用可能になると、DJI Mimo アプリにプロンプトが表示されます。プロンプトをタップし、画面上の指示に従って、ファームウェアを更新してください。

- 🔧 更新できない場合、次の手順に従って問題を解決してください。
1. カメラと DJI Mimo アプリを再起動します。
  2. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth を有効にします。

3. カメラと DJI Mimo アプリを接続し、再度アップデートを試行します。  
更新に失敗したら、DJI サポートにご連絡ください。
-

## 3 本製品の使用

### 3.1 ボタン機能



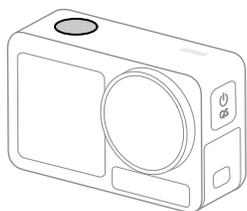
#### 電源/クイックスイッチボタン

- 長押し：電源オン/オフ。
- ライブビューで：クイックスイッチページに入るには1回押します。プリセット撮影モード\*を切り替えるには再度押します。
  - \* プリセットを変更するには、クイックスイッチページの右上隅の・・・をタップします。
- 動画またはスローモーション動画撮影中にアイコンをタップして、「ハイライト」をマークできるので、ポストエディット中に特定の瞬間を素早く見つけることができ、ハイライトを探す時間を短縮できます。
- 他のページで：ライブビューに戻るには1回押します。

#### シャッター/録画ボタン

##### 電源をオンにすると

- 1回押す：写真撮影、または動画撮影の開始/停止。
- カメラが水深14m\*以上に潜ると、自動的に**シャッター/録画ボタン保護**が有効になります。このモードでは、クイックスイッチボタンを1回押すと写真撮影または録画の開始/停止ができ、2回押すとクイックスイッチページに入ります。浮上後、画面の指示に従ってプロテクションモードを終了し、ボタンの通常機能を復元してください。
  - \* 水の状況やデバイスの状態によって深さは異なる場合があります。14mは参考値です。

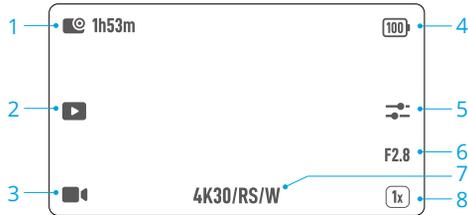


##### 電源オフ時

- 1回押す：電源を入れて録画を開始します（スナップショット）。再度押すと動画撮影を停止します。撮影後、カメラを3秒間放置すると自動的に電源が切れます。
  - \* スナップショット機能は、撮影を開始する最速の方法で、アクションの瞬間を逃しません。デフォルトでは、スナップショットは最後に使用した撮影設定を適用します。変更するには、コントロールセンターに入り、**○> スナップショット**をタップします。

## 3.2 タッチスクリーンの操作

カメラの電源が入ると、タッチ画面にライブビューが表示されます。



### 1. ストレージ容量／残り録画時間

### 2. 再生

タッチスクリーンには、最後に撮影または再生した写真または動画が表示されます。

再生中、●アイコンをタップすると、「ハイライト」をマークできるので、ポストエディット中に特定の瞬間を素早く見つけることができ、ハイライトを探す時間を短縮できます。マークされた「ハイライト」は、DJI Mimo アプリで再生中に見ることができます。

- ☀️ • 動画を再生中に、画面上の空白部分を長押しすると2倍速で再生されます。
- 再生中に、画面の右端から左にスワイプしてライブビューに戻ります。

### 3. 撮影モード

### 4. カメラのバッテリー残量

### 5. 画像／音声パラメーター

### 6. 絞り値

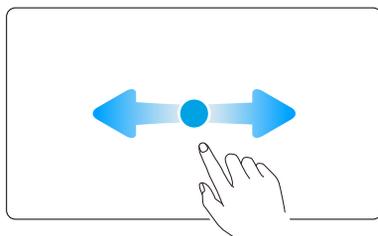
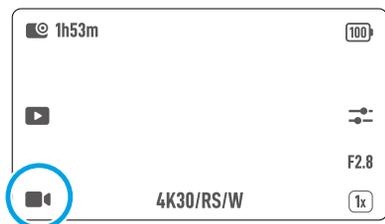
### 7. 撮影仕様

### 8. ズーム

一部の撮影モードではズーム調整が可能です。

- ☀️ Osmo Action 6 マクロレンズがインストールされている場合、ズームは無効になります。フォーカスリングを回して、より近い被写体に手でフォーカス／焦点を合わせることができます。

## 撮影モードの設定



1. アイコンをタップするか、画面を左右にスワイプして、モード切り替えページに入ります。
2. スワイプして撮影モードを選択します。

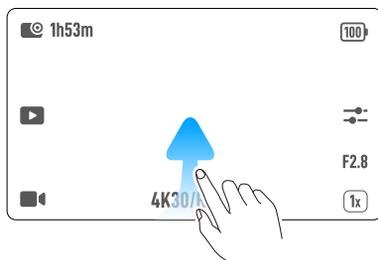
☀ 注：スローモーション動画は音声を含みません。音声ファイルは、スタンドアロンファイルとして、動画ファイルと同じパスに保存され、パソコンに転送できます。

3. 選択した撮影モードをタップするか、画面の下から上にスワイプしてライブビューに戻ります。

## 撮影パラメーターの設定

撮影モードにより、設定可能なパラメーターは異なります。実際のインターフェースを参照してください。

1. 画面下側から上へスワイプすると、各撮影モードのパラメーターを設定できます。



📖 動画モードでは、左上隅をタップして、プリ録画またはループ撮影を有効にします。右上隅をタップすると、EIS モードと視野角を設定できます。

- **プリ録画**：有効にすると、カメラは設定した時間内に映像をプリ録画します。シャッター／録画ボタンを押すと、カメラは、シャッター／録画ボタンを押す前の最新の録画済み映像を保存して録画を継続し、その映像を全体の映像として保存します。この機能は、シャッター／録画ボタンを押す前にカメラが動画を保存

し、ストレージ容量を過剰に消費しないようにします。これにより、ハイライト（特に釣りなど）を逃さずに撮影できます。

- **ループ撮影**：有効にした場合、カメラは選択した時間が経過すると、古い映像を新しい映像で上書きして録画します。この機能はカメラのストレージ容量を節約し、ユーザーが予期しないハイライトを撮影するのを待つシーン（例えば運転中など）に最適です。
- **アスペクト比**：デフォルト設定は自動ですが、カスタムに設定することもできます。この設定では、4K 動画を撮影し、ポスト編集で 16:9 や 9:16 などの比率にクロップして、さまざまなメディアプラットフォームに合わせることができま
- す。
- **EIS（電子映像ブレ補正）モード**：
  - オフ：視野角を最大にして動画を撮影します。
  - RockSteady：映像のブレを補正しながら、ダイナミックな動きを維持します。一人称視点の撮影に適しています。
  - RockSteady+：RockSteady と比較すると、画像のエッジがわずかに縮小され、ブレ補正の性能が高まります。
  - HorizonBalancing：このモードは、水平方向±45°以内の画像の揺れを軽減しつつ、高解像度の画像品質を維持します。
  - HorizonSteady：360°以内のロール軸の揺れを排除します。激しい動きやターンを伴うシーンでも、画像が水平で安定するようにします。

 ジャイロデータで動画を録画するには、EIS モードを無効にし、カメラの視野角をワイドに設定します。

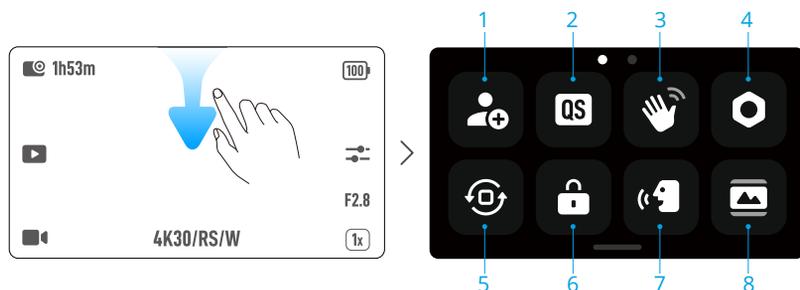
パラメータを設定したら、画面上部から下にスワイプしてライブビューに戻ります。

2. ライブビューで、 をタップすると、映像・音声パラメーターを調整できます。**PRO** をタップすると、アイコンが黄色くなり、プロ向けのパラメーターを調整できるようになります。

-  • **可変絞り**をタップし、撮影環境に応じて適切な絞りモードを選択します。撮影モードにより、設定可能な絞りモードは異なります。詳細は、公式ウェブサイトでご確認ください。
- [D-Log M]は、後編集時にプロ仕様のカラーグレーディングに対応するよう設計されています。ハイコントラストまたはマルチカラー（ガーデン、フィールドなど）のシナリオでは、ダイナミックレンジを拡大して、撮影後のカラー調整の幅を広げることができます。

## コントロールセンター

画面上部から下にスワイプすると、操作センターに入ります。画面の下部から上にスワイプすると、ライブビューに戻ります。



### 1. カスタムモード

現在の撮影設定をカスタムモードとして保存し、シーンを選択します。カスタムモードは、同じようなシーンを撮影するときに、直接使うことができます。

### 2. クイックスイッチ

クイックスイッチボタンでアクセス可能なモードを設定します。クイックスイッチボタンの機能がモード切り替えに設定されている場合、撮影モードメニューでクイックスイッチモードをカスタマイズし、モード切り替え時に音声プロンプトを有効/無効にすることができます。

 音声プロンプトを有効にすると、クイックスイッチボタンを押すたびにカメラが現在の撮影モードを知らせます。カメラをヘルメットや直接見ることができない場所に取り付けた際、音声プロンプトを使用して、必要なモードへ正確に切り替えることができます。

### 3. ジェスチャー操作

有効にすると、手のひらジェスチャーで写真を撮ったり、録画を開始/停止したりできます。

### 4. 設定

#### • ワイヤレスマイク

画面に表示される指示に従って、リンクしてください。リンクが完了すると、トランスミッターを使用してカメラを制御し、録画を開始し、音声をトランスミッターでキャプチャできるようになります。トランスミッターがカメラにリンクされている場合、ワイヤレスマイク設定をタップして、トランスミッターの音声パラメーターを調整できます。

カメラは2台のDJI ワイヤレスマイクトランスミッターに同時に接続できます。詳細については、DJI のウェブサイトや、マイク製品のユーザーマニュアルを参照してください。

- **ワイヤレスイヤホン**

イヤホンがペアリング状態であることを確認してください。機器名がリストに表示されたら、タップして接続してください。接続されると、カメラはイヤホンでキャプチャされた音声を使用して動画を録画します。

\* 無線イヤホンは録音のみ対応しており、音声の再生には使用できません。

- **深度&高度**

深度または高度の関連設定が有効になっている場合、録画された動画には深度または高度の情報が含まれます。また、記録されたデータは、DJI Mimo アプリアプリのダッシュボード機能を使用して、視覚化された形式で映像に追加することができ、エキサイティングなスポーツの瞬間をよりよく表現することができます。

- **内蔵マイクでの音声バックアップ**

無線マイクで録音する際、ユーザーは内蔵マイクでの音声バックアップ機能を有効にすることができ、カメラのマイクから同時に録音されます。このバックアップ音声は、個別の.aac ファイルとして保存することも、動画ファイルに追加音声トラックとして埋め込むこともできます。

- **タイムコード**

タイムコードをリセットするか、システム時間と同期します。カメラのタイムコードは、USB-C ポートを使用したタイムコードシンクロナイザーでも同期できます。

**タイムコード表示**をタップすると、ライブビューでタイムコードを表示できます。

## 5. 方向ロック

## 6. 画面ロック

## 7. 音声操作

[音声操作] を有効にすると、音声コマンドでカメラを操作できます。

簡体中国語と英語に対応しています。画面上のインターフェースでコマンドの全リストを参照してください。

## 8. フロント画面を全画面表示

# 3.3 超スローモーション

超スローモーション機能を使用すると、映像をフレームごとに分析し、スローモーション映像を生成することができます。この機能は、サイクリングやスキーなどの高速なスポーツシーンで、驚きに満ちたエキサイティングな瞬間を映し出すのに特に適しています。

映像を再生する際、特定のポイントを選択して **Ⓜ** アイコンをタップすることで、超スローモーションのビデオクリップを生成することができます。生成プロセス中に、**[プレビュー]** をタップして、スローモーション効果をプレビューすることができます。

**[キャンセル]** をタップすると、超スローモーション映像の生成を途中で停止することができます。超スローモーションのクリップを削除するには、映像の再生時に右上の **🗑** アイコンをタップします。

- 🔦 • カメラは 4 倍のフレーム補間を行い、最大 960fps のスローモーション映像を生成できます。
- 1 つの映像につき、最大 6 つの超スローモーション映像を追加できます。
- 超スローモーションは、4K/2.7K/1080p 16:9 の映像で、フレームレートが 100fps 以上の場合にのみサポートされます。生成される超スローモーション映像はすべて 1080p の形式になります。
- 映像の最初の 1.5 秒と最後の 2 秒は、超スローモーションの生成に対応していません。

## 3.4 映像の保存と転送

### ストレージ空き容量

画面上部から下にスワイプし、それから左にスワイプすると、ストレージ情報を確認できます。



カメラには内蔵ストレージがあり、microSD カードを挿入することでストレージを拡張することもできます。

内蔵ストレージまたは microSD カードをフォーマットするには**ストレージ**をタップします。

- ⚠ フォーマットを行うと、すべてのデータが永久に消去されます。フォーマットする前に、必要なデータをすべて、必ずバックアップしてください。

## ファイル転送

- ☛ ケーブルでファイルを転送する際、カメラが接続されたデバイスを自動的に認識できない場合は、コントロールセンターに入り、**🔌 > USB モード**をタップして、カメラを再接続してください。

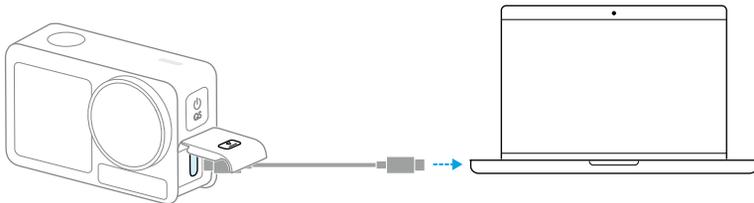
### モバイル端末へのファイル転送

- カメラを DJI Mimo アプリに接続し、アルバムアイコンをタップして、写真と動画をプレビューします。📁をクリックして、写真と動画をダウンロードします。
- OTG 接続をサポートするモバイルデバイスでは、USB モードでファイルを転送できます。付属のケーブルを使用してカメラをモバイル端末に接続してください。接続すると、端末のアルバムやファイル管理場所から、写真や動画の閲覧や転送が可能になります。
- MTA プロトコルに対応した Android 端末では、共有機能を利用してファイルを転送できます。ご使用前に、スマートフォンが MTA プロトコルに対応しており、必要な権限が有効になっていることを確認してください。アルバムでファイルを選択し、**(📁)**をタップして、画面の指示に従ってください。

写真や動画は、DJI Mimo アプリから SNS プラットフォームに直接共有できます。

### ファイルをパソコンに転送

カメラの電源を入れ、USB-C ケーブルでパソコンに接続します。パソコンに接続すると、ポップアップが表示されます。ファイル転送 : USB をタップすると、カメラからパソコンにファイルをダウンロードできます。ファイルの転送中は、カメラで写真を撮影したり、動画を録画したりできません。



- ☛ ファイル転送が中断された場合には、デバイスをパソコンに再接続してください。

## 3.5 ウェブカメラモード

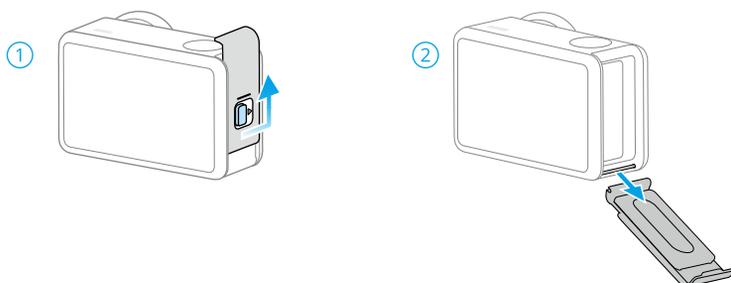
本製品は、パソコンのウェブカメラとして使用することができます。本製品の電源をオンにし、USB-C ケーブルでパソコンに接続します。カメラの **Web カメラ** をタップしてウェブカメラモードに入ると、カメラがウェブカメラ入力デバイスとして機能します。画面の下部には、[ウェブカメラ]と表示されます。

シャッター／録画ボタンを押すと、録画を開始します。ユーザーは、ウェブカメラモードを終了した後、録画した動画をプレビューできます。

## 3.6 サイドカバーの取り外し／取り付け

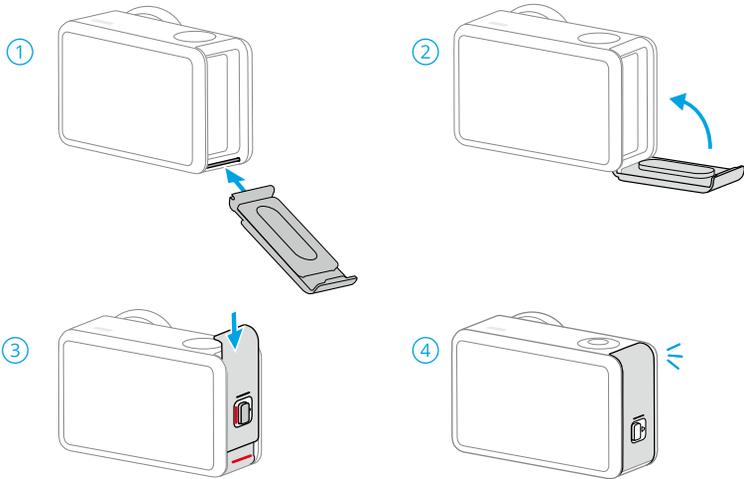
カメラの両側カバーは取り外し可能です。イラストではバッテリー収納部カバーを例として使用しています。

### 取り外し



### インストール中

カバーが解除され、赤いマークが見えていることを確認してください。カバーの溝とカメラの取り付けポストを合わせてください。



## 3.7 使用上の注意

### 水中での使用

- ⚠️ 本製品は水深最大 20 m まで使用できます。
- Osmo Action 6 防水ケースと併用した場合、本製品は水深最大 60 m まで水中で操作できます。

水中で使用する前は、次の注意事項を守ってください。

- バッテリーを挿入する前に、バッテリーとバッテリー収納部が乾いた清潔な状態であることを確認してください。バッテリーの接続性や防水性に影響を及ぼす恐れがあります。バッテリーを挿入した後、バッテリー収納部カバーがしっかりと閉じられていることを確認してください。カバーが適切に固定された後は、赤いマークが見えなくなることに注意してください。
- USB-C ポートカバーとレンズ保護カバーがしっかりと取り付けられ、固定されていること、防水シールが汚れていないことを確認してください。デバイスの防水性能に影響を与える恐れがあります。本製品上にある穴は、すべて防水処理が施されています。穴をついたりしないようにしてください。
- レンズ保護カバーが良好な状態であることを確認してください。破損した場合は、すぐに交換してください。レンズ保護カバーとレンズを清潔で乾燥した状態に保ってください。鋭利なものや硬いものはレンズを傷つけ、カメラの性能に影響を与える恐れがあります。

レンズ保護カバーがしっかりと取り付けられていること、レンズの根元にあるゴムリングが外れていないことを確認してください。

4. 製品は、Osmo Action 6 マクロレンズを使用した場合は防水ではありません。

**水中で使用する場合は**、次の注意事項を守ってください。

1. 本製品を持って、勢いよく水に飛び込むことは避けてください。衝撃で漏水する恐れがあります。
2. 温泉や腐食性液体の中、または極端な水中環境では本製品を使用しないでください。

**水中で使用した後は**、次の注意事項を守ってください。

1. 水中で使用した後は、浄水でカメラを洗ってください。次回使用するまで、自然乾燥させてください。柔らかく乾いた布でカメラの表面を拭きます。
2. ヘアドライヤーの熱風でカメラを乾かさないでください。マイクの薄膜や内蔵通気性薄膜が破裂し、カメラの防水性が失われる恐れがあります。
3. カメラを水中で使用した後、バッテリーを交換する必要がある場合には、バッテリー収納部の隙間に水が入らないように、バッテリー収納部カバーを下向きに開けてください。バッテリー収納部の隙間の水滴を拭き取り、赤い防水ゴムリングを清掃して異物が残らないようにします。清掃をしないと、その後の使用時、防水性能に影響します。
4. レンズ保護カバーの交換時は、カメラが乾いた状態であることを確認してください。カメラを水中で使用した後は、カメラを乾かしてから使用してください。これを行うことにより、レンズ保護カバーに水が浸入して、レンズが曇るのを防ぐことができます。

**防水ケースを本製品に使用する場合は**、次の注意事項を守ってください。

1. 使用中、ゴム製シールが清潔でしっかりと取り付けられていることを確認してください。
2. 防水ケースが乾いていて（より良く使用するため、使用中は曇り止めインサートをケースに入れてください）、ラッチがしっかりと固定されていることを確認してください。
3. ご使用前に、正常に機能することを確認するため、防水ケースを約5分間水中に入れておくことを推奨します。
4. 海で使用した後は、腐食防止のため、本ケースを水道水ですすいでください。



- タッチ画面は、表面が濡れていても使用できます。
  - タッチ画面は、水中に完全に沈むと機能しません。カメラのボタンを押すことで録画を開始できます。防水ケースなしで、本カメラを水深 14 m 以上で使用すると、シャッター／録画ボタンが自動的に無効になります。
-

## バッテリー

1. 正規品以外のバッテリーを使用しないでください。公式以外のバッテリーを使用したことに起因する損害に対して、DJI は一切責任を負いません。
2. <https://www.dji.com/osmo-action-6/specs> で指定された温度範囲内でバッテリーを使用してください。高温環境でバッテリーを使用すると発火や爆発につながるおそれがあります。低温環境でバッテリーを使用する前に、室温環境でバッテリーを完全に充電することをお勧めします。理想的な温度でバッテリーを充電すると、バッテリーの寿命を延ばすことができます。
3. バッテリーを良好な状態に保つために、3 カ月に 1 回はバッテリーを完全に放電したあと完全に充電するようにしてください。
4. バッテリーは、完全に充電されると充電を停止するよう設計されています。充電の進捗状況を監視し、バッテリーがフル充電されたら充電器の接続を取り外すことをお勧めします。
5. バッテリー電圧が低すぎると、バッテリーは低電力状態になります。低電力モードを終了するには、バッテリーを充電してください。
6. バッテリーを完全に放電した状態で長期間保管しないでください。バッテリーが過放電し、バッテリーセルに修理不能な損傷が生じる恐れがあります。
7. バッテリーを 10 日以上使用しない場合は、40~65%まで放電してください。これにより、バッテリーの寿命を大幅に延長できます。

## クリーニング

1. アルコールまたは洗剤液を含む液体をカメラに使用しないでください。
2. マイクの穴や放熱スロット、カメラのその他の部分が砂などの異物でふさがれた場合は、カメラを密閉・防水状態にして、真水で洗い流してください。
3. レンズ保護カバーは、水、レンズ用クリーニングペン、レンズ用エアブローワー、またはレンズ用クリーニングクロスを使って、きれいにしてください。レンズ保護カバーを頻繁に取り外さないでください。レンズカバー内にほこりがたまり、撮影画質に影響を与える可能性があります。
4. レンズは、レンズ用クリーニングペン、レンズ用エアブローワー、またはレンズ用クリーニングクロスを使って、きれいにしてください。
5. 乾いた清潔な布で、バッテリーとバッテリー収納部を掃除してください。
6. カメラのクイックリリース用取り付け穴にほこりや砂が付着していないことを確認し、クイックリリース式アダプターマウントを取り付けてください。

## 4 仕様

仕様については、以下のウェブサイトを参照してください。

<https://www.dji.com/osmo-action-6/specs>



連絡先  
DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。  
最新版は下記よりダウンロードしてください



<https://www.dji.com/osmo-action-6/downloads>

本書についてご質問がある場合は、DJI（[DocSupport@dji.com](mailto:DocSupport@dji.com)）宛にメッセージを送信）までお問い合わせください。

DJI と OSMO は、DJI の商標です。

Copyright © 2025 DJI All Rights Reserved.